



特定非営利活動法人

# 子どもの村東北

発行：2018年4月20日

発行責任者：飯沼一宇

仙台市青葉区中央2-7-30角川ビル511

News Letter Vol.19

## ■ 開村から3年が経過しました

子どもの村東北は、2014年12月19日に開村しました。早いもので3年が経過しました。振り返ってみると、大勢の方の力を借りてきましたからこそ今があるのだと実感します。近所の公園で子どもが遊んでいると、近くで見守っていただいたり、一緒に広場で遊んでいただいたり、登下校のときの子どもの表情を気にかけて報告してくれたり。汗だくになりながら広場の芝生や植栽の手入れをしてくださったり、除雪を手伝ってくれたり。最近では、進学という目標を達成したいという子どものために、学習ボランティアに通ってくださったり。子どもたちにとっては、育親さんや村長さんたち以外に信頼できる大人と出会うことが出来たとても貴重な体験です。改めて御礼申し上げます。

開村からこれまで村では、小学生の子どもから自立を目指す子どもまで幅広い年代の子どもたちを受け入れてきました。なかでも中高生の子どもの受け入れが多かった点が、日本ではじめての子どもの村として開村した「子どもの村福岡」のケースとの違いでした。その年代の子どもたちの場合、進学や就職、実の親元へ帰れそうかどうかなどの悩み事が多い時期ですので、育親さんが子どもの養育に際し

て不安や悩みを抱えてしまうことも多かったことは確かでしょう。その中で、1名の子どもを自立に導いたこと、実家族の元に帰ることができた子どもが2名もいたことは、育親さんの養育の成果と言えると思います。また、村長、スタッフ、バックアップした心理士・医師たちによる専門家サポートチームの支援も効果的だったと言えます。

2018年度には、宮城県からの委託事業である「親子滞在型支援施設事業」を開始します。この事業は、児童福祉施設で暮らす子どもたちが実家族の元に戻る場合に、親子関係を良好につなぎ合わせる事業と、養育里親さんと里子のマッチングを行う事業の2つになります。これらの事業も、本来子どもの村で取り組む事業のひとつとして捉えていたものなので、開村から4年目を迎え、村での子どもの養育に加えて、さらに事業の幅を広げて法人として研鑽を積んで参ります。

引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願ひいたします。



広報グループ担当理事

宮本 武



## ■ 村だより



ファミリーアシスタント 德永 葵

昨年の12月から今年の3月にかけての記録的寒波は、九州地方出身の私にとって初めて見聞きすることばかりで、20代後半になって新発見の毎日でした。雪かきをする風景、村の庭に降り積もった雪で子どもたちがそり滑りやかまくら作りなどをして遊ぶ風景は、私が生まれ育った町ではめったに見ることができないものでした。

新発見は風景だけではなく、子どもとの関わりの中にもありました。普段は強気な発言が多く「とりあえず大丈夫」という一言でやり過ごす子が、大事な試験の直前になると「やっぱり緊張する」と弱い部分を見せた時。いつも笑顔でマイペースに物事を進めていく子が、任された役割を周りと協力しながらしっかりと取り組んでいる真剣な表情を見る

ことができました。私が出会った子どもの一面は育親さんよりははるかに少ないかもしれません、育親さんをはじめとした子どもを見守る大人たちでその姿を共有することで、もっとその子のことを理解することができその子にとって何が最善のサポートになるのかを考えていけるのではないかと思いました。これからも子どもたちの色々な姿を、見守っていきたいと思います。



## しつけについて



「山崎さん、家庭養護って何ですか？」シリーズで始まったこのコーナー。家庭養護を知る上でさまざまな視点から学びます。今回は「しつけ」についてです。

### しつけとは

今回はしつけのポイントについて書きたいと思う。しつけとは、子どもが物事の善し悪しを理解し、自ら良い行動がとれるように導いていく長期間の養育方法を指す。その目的は、子どもが人との健康的な関わり方や生活習慣を身につけ、自立できるように育てていくことにある。

しつけでは、子どもが自分で自発的に行動できるようにすることと、子どもの自己肯定感を育てることを大切にしたい。しかし、しつけは、やり方によっては、子ども自身の自己評価を下げたり、子どもの自尊心を傷つけることもあるので、その方法に気をつけなければならない。「ばかだね」「こんなこともできないの」などと言いながらしつけると、「ぼくはばかだ」なんて信じ込んで、自尊感情を下げてしまうこともある。子ども時代にこのように言われて、大人になって苦しんでいる方もいる。カウンセリングをしていて、何回も体験した。

### 冷静になってしつけるということ

しつけと怒ることは分けておく必要がある。子どもが言うことを聞かないとき、つい親は感情的になり、怒ってしつけることがある。しかし、感情的になってしつけると、子どもは親の感情の方が気になって、肝心のしつけの内容がおろそかになる。時には、親が腹を立てて怒ると、子どもは怖いためにボーッとしてしまうこともある。その姿を見て、親は「ちゃんと聞いているの！」とますます感情的になり、悪循環に陥る。さらに、感情的になってしつけると、子どもを傷つける言葉を使ったり、体罰に発展しやすいので注意が必要である。その結果、親も後悔して不愉快な気持ちを味わう。しつけは、できるだけ親が冷静になって行いたい。腹が立っているときは、ちょっと深呼吸をして、時間をあけ、落ち着いてから子どもと関わった方が望ましい。

### 叱るときのポイント

叱るときのポイントは、人を叱らず問題行動に焦点を当てる、ということである。子どもが望ましくない行動をしたとき、つい「ダメな子ね」とかいうように、子どもの人格を否定するような叱り方をすることがある。このとき、子どもは、自分が「ダメな子だ」と思い込み自己評価を下げてしまう。叱るときはあくまで、問題行動だけに焦点を当てることがポイントである。例えば「妹を叩くのはダメなことだよ」と、行動にだけ焦点を当てる。と同時に、幼少期には、どうしたらよいかということを伝える。例えば、「仲良く遊んでね」と伝えること。そして、できたら褒める。親がモデルを示すことも効果がある。

### 望ましい行動を具体的に伝える

親は子どもに対して「いい子でいてね」とよく言う。しかし、子どもは「いい子」の意味を親と同じように捉えているとは限らない。子どもをしつけるときには、具体的行動を教えることが大切である。例えば、「お客様がきたら、こんにちはと、あいさつをしてね」というように具体的行動を教える。そしてできたら褒める。これも一つのポイントである。

### 子どもの気持ちを大切にすること

親からの方通行のしつけは、必ずしも子どもの意欲を高めることにならない。子どもの言い分を聞いたり、子どもの気持ちを汲みながら親がしつけることで、子どものやる気を引き出していく。子どもの気持ちを無視すると、子どもは自発的に行動しなくなるため、どうしても親は高圧的になる。そうすると、子どもは親の顔色を伺って従うか、従わないで閉じこもるか、のどちらかになり、子どもの自発的行動につながりにくい。また、子どもは自分の気持ちを大切にされることによって、人の気持ちを大切にするようになり、これが共感性につながっていく。

### 肯定語を使うこと

私たちは通常否定語を使うことが多い。「忘れ物をしないように」「遅刻をしないように」「汚さないように」というような例である。否定語は、一度前半の言葉を考えて、それを打ち消すというプロセスを踏むことがわかっている。つまり「忘れ物」に一度は焦点があたり、かえって忘れ物をしやすくなる、ということである。代わりに、「持ち物を確認してね」「間に合うように行くのよ」「きれいに使ってね」というように肯定語を使う方が、子どもの望ましい行動につながりやすい。

### 親の精神的ゆとり

親が冷静になって子どもをしつけるためには、親自身が精神的ゆとりを持つことがとても大切であると思う。趣味を持ったり、できるだけ自分自身の楽しい時間をもつたりして、少しでも精神的なゆとりのある時間を作りたい。子どもが小さいときはなかなか難しいことではあるが、様々な子育て支援プログラムを活用したりして、親が自分の時間を持つことを大切にしたい。以上いろいろ書いたが、参考になることを少し取り入れ、ボチボチと、60点主義でしつけを実践していけたらよいと思う。

監修文責 山崎 剛 (やまさき たけし)

臨床心理士。元宮城県中央児童相談所長。

現在、みやぎ心のケアセンター副センター長、子どもの村東北副理事長。

## ■公開講座を開催しました



2018年1月13日（土）と27日（土）に、人材養成研修第6期公開講座を行いました。

第1回目は「思春期の性の問題の理解と支援」をテーマとした大阪府衛生会診療所医師の岡本正子先生による講座、第2回目は、広島国際大学特任教授でSOS子どもの村JAPAN理事の松崎佳子先生による「フォスタリングチェンジプログラムの理論と実践」をテーマに開催しました。

第1回目の岡本先生による講座は、昨年に引き続き25名の方にご参加いただきました。前半は「思春期の性の問題の理解と支援」というテーマの講演、後半はテーマに沿った事例をもとに、岡本先生から対応についての助言等をいただきました。参加された方は熱心にメモを取りながら集中して聞いている様子が多く見られ、また後半は、会場からの質疑応答には制限時間ぎりぎりまで詳しく回答いただくなど、大変内容の濃い充実した研修になったことだと思います。



公開講座の様子



講師の  
岡本正子先生



講師の松崎佳子先生



### 理事リレーコラム

### 「太白山のふもとから」

循環型支援を願う

理事 猪又 明美

私が所属している会社では、物流箱の洗浄事業を通じ、障がい者雇用に力を入れてきており、今年で23年となります。

平成7年一人の知的障がい者の就労について社員から相談があり、受け入れを開始しました。残念ながら当時は、現場の社員から理解を得る事は非常にハードルが高く、議論を重ねたことを昨日のように記憶しております。その洗浄事業も平成22年に、事業独立し、グループ特例子会社、株式会社クリーン＆クリーンとして新たに活動を始めたこととなりました。障がい者雇用を通じて、改めて感じることは、一人ひとりの個性と得意を活かせると戦力に変わり現場の力となり、キャリア開発を通じて、引きこもり支援、高齢者雇用開発などの能力をフロントサイドが身に着ける事ができるという大きな副産物をもたらします。現在では、本社工場（宮城野区）、札幌自社工場他、洗浄工場の請負拠点仙台・春日部・杉戸・川崎・大阪と展開しており、今年3月からは市川がスタートしております。何れの場所でも障がいのあるスタッフが活躍し、戦力になっております。新規事業展開や、各拠点で生産が追い付かない時は、今では本社の障がいがあるメンバーが出張ベースで応援にはい

ります。良く、何故そんなに新規事業所を立ち上げるのかという質問がありますが、事業を展開できると言うことは、働きにくい方々の居場所づくりができ、活躍できる場を作ることができるからだと話をします。

東日本大震災では、工場が半年近く稼働できずにいました。家族や家が流されたメンバーもおりましたが、皆、仕事があり、仲間がいるから頑張ると、誰一人退職することもなく、工場へ通勤可能なメンバーは、地震で崩れた荷物の整理、汚れた商品の洗浄、工場の清掃などに明け暮れました。様々な出来事を乗り越え、今では従業員数160名内、障がい者46名となり、他5割が高齢者となっております。

3年前からクリーン＆クリーンも、子どもの村東北の支援企業会員となり、募金箱も工場に置いて少しづつですが、支援企業としての役割に努力しているところです。支援される側が支援できる側へ・・・村を卒業した子どもたちが、いずれ大人になり、同じように支援する立場になる。支援の循環が様々なところで起きていくことを願い、事業活動と子どもの村東北の活動を通じ取り組んで行きたいと思っております。

## ご寄付の納入方法のお知らせ

**さらに、  
便利に  
なりました！**

どんな手順で納入したらいいのか？とお問合せを受けることがあります。  
下記を参考に、ご都合にあった寄付納入をお願いいたします。

当法人へのご寄付は  
寄付控除の対象となります  
当法人は認定NPOの為、  
当法人へのご寄付は税  
制上の優遇措置の対象  
となります。

**継続して寄付をする**

**1回だけ寄付をする**

**支援会員寄付の申込み**

**寄付の申込み**

**納入方法を決める**

**年1回か毎月か選べる  
口座自動引落し**

法人事務局に連絡

必要書類が郵送される

必要事項を記入し返送する

※手続き完了まで2ヵ月程度かかります

**頻度と金額が選べる  
クレジットカード**

パソコン・スマホを利用して  
当法人HPから申込み

頻度・金額を選択する  
頻度は、1回（寄付）、毎月・3ヵ月毎・6ヵ月毎、  
毎年（支援会員寄付）。金額は、任意（寄付）、  
1,000円、3,000円、5,000円…（支援会員  
寄付）とご希望の頻度・金額をお選び下さい

※手続き完了まで2ヵ月程度かかります

**お近くの銀行で  
銀行振込**

下記口座へ振込む

**直接お届け頂いたり  
募金活動・寄付贈呈式など**

法人事務局に連絡

「遺贈」「古品回収」「募金」「自販機」  
などご意向に合わせた支援の方法を  
お選び頂けます。お気軽にお問合せ  
ください。

**■ゆうちょ銀行** 店名：二二九店  
口座記号番号 02290-3-127151  
口座名義 特定非営利活動法人 子どもの村東北  
他金融機関からゆうちょ銀行への振込みの場合  
口座種類 当座預金  
口座番号 0127151  
口座名義 特定非営利活動法人 子どもの村東北

**■三井住友銀行** 仙台支店（支店コード311）

口座番号 1838931  
口座名義 特定非営利活動法人 子どもの村東北

**■七十七銀行** 新伝馬町支店（支店コード203）  
口座番号 5835208  
口座名義 特定非営利活動法人 子どもの村東北  
理事長 飯沼一宇（イヌマカズナ）

**【支援会員寄付】**

◆ご支援いただいた企業・団体のみなさま（2017.11.18～2018.4.12）  
\*敬称略・順不同  
仙台小児科医会、特定非営利活動法人アマポーラ・オーソドンティック・ファシリテーターズ、有限会社華丸ラーメン  
株式会社鐘崎、一般社団法人仙台キワニスクラブ、株式会社こはる、ハイファイヴ英語学院、有限会社ふじや千舟  
有限会社白川牛肉店、株式会社ホームユニバース、医療法人社団原口小児科クリニック

**【一般寄付】**

アメリカン・エキスプレス・インターナショナル、Inc.、ベジストリー、日本基督教団鳴子教会、ショーボンド建設株式会社  
中山社協子ども応援隊、ほのぼの童謡愛好会、里親支援部会栃木県児童養護施設等連絡協議会、長谷幼稚園保護者会、  
石巻市民生委員児童委員協議会、ソシアルダンス白鳥、有限会社楽喜夢、Freundeskreis Tsunami-Waisen KIBOU e.V  
横浜山手聖公会、仙台市ほほえみの会、穀町保育園、仙台青葉学院短期大学看護学科2年生一同、龍村ヨガ秦野  
愛隣こども園、株式会社サンパワー、国際ソロプロチミスト愛知ガーデニア、株式会社ペングインエデュケーション  
みやぎ紫金草合唱団、暮らしに押しばなをの会、日本赤十字社福島支部田村市地区有功会、フェアリーハンズ  
秋保町子ども会育成連合会、小牧幼稚園父母の会、藤間芳利美会、第一光の子保育園、宗教法人東大寺、SAVE SENDAI 311  
田村市赤十字奉仕団連絡協議会、医療法人中山こどもクリニック、医療法人寛和会浜通りふれあい診療所、ぬい処 結  
日本聖公会横浜教区林間聖バルナバ教会、ウィーン十勝市民交流の会、桧原こひつじ幼稚園こひつじ基金、株式会社ウルズ  
3.11 きずなプロジェクト in はつかいち実行委員会、丸由自動車株式会社、株式会社松本純一郎設計事務所



**◆支援会員**

\*個人会員 917名

\*団体会員 80企業・団体

2018年4月12日現在

特定非営利活動法人 **子どもの村東北**

法人 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30 角川ビル511  
事務局 TEL: 022-748-6936 FAX: 022-748-6931

【子どもの村東北所在地】  
仙台市太白区茂庭台2-16-9-1  
TEL: 022-281-9653 E-mail: center-t@cvtohoku.org  
E-mail: info@cvtohoku.org